

ライオンのサステナビリティ

- ▼ 基本的な考え方
- ▼ サステナビリティマネジメント（推進体制）
- ▼ 価値創造プロセス

基本的な考え方

ライオンは「事業を通じて社会のお役に立つ」という創業の精神を受け継ぎ、経済的発展のみならず、環境や社会に与える影響を考慮しながら、地球環境や社会の課題に対し事業を通じて長期的・継続的に取り組んできました。

現在は、2030年の経営ビジョン「次世代ヘルスケアのリーディングカンパニーへ」の実現に向けて、リスク低減に向けた経営の重要な課題に取り組むとともに、パーパス「より良い習慣づくりで、人々の毎日に貢献する（ReDesign）」を基軸としたパーパスドリブン経営を実践しています。パーパスを起点に「サステナビリティ重要課題への取組み」と「3つの成長戦略」を相乗的に推進し、サステナブルな社会への貢献と事業の成長を目指します。



サステナビリティとは

環境・社会・経済の3つの観点からこの世の中を持続可能にしていくという考え方です。「持続可能な（サステナブルな）企業」とは、経済的発展のみではなく、社会や環境に与える影響を考慮しながら、長期的戦略のもと、継続的な事業活動に取り組む企業を指します。

持続可能な開発目標（SDGs）への貢献

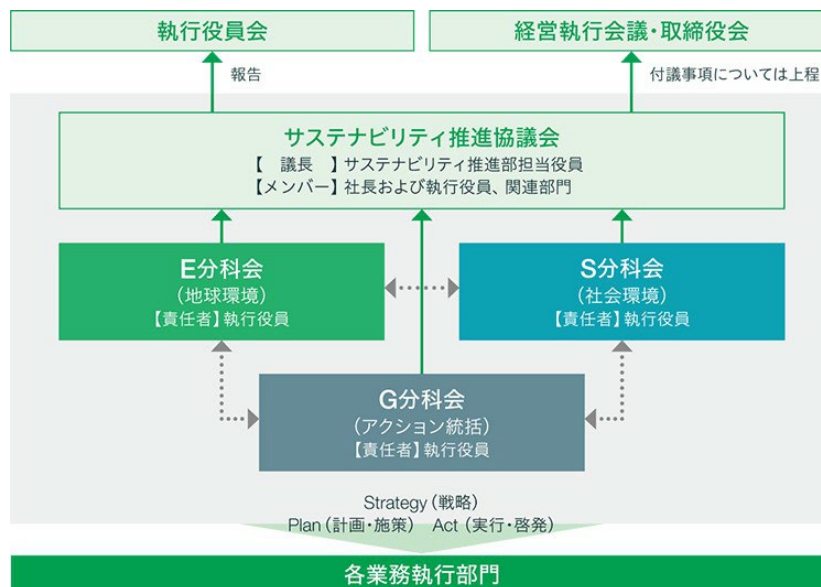
SDGsは2030年までに持続可能な世界を実現するために国連によって定められた国際社会共通の目標です。ライオングループは、商品・サービスを通じて、主にSDGsの目標3「あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を推進する」の達成に貢献していくとともに、中長期経営戦略フレーム「Vision2030」の実現に向けた取り組みを通じて、SDGsが目指す持続可能な社会の実現に貢献していきます。



サステナビリティマネジメント（推進体制）

サステナブルな経営を推進する仕組みとして、従来は社長を含む業務執行取締役全員と関連部門を構成メンバーとした「サステナビリティ推進会議」を開催していましたが、2021年より、社長を含む業務執行取締役全員と関連部門で構成する「サステナビリティ推進協議会」を設置しました（年2回開催）。

協議会の傘下に執行役員を責任者とするE・S・G、3つの分科会を設け、サステナビリティ重要課題に対する取組みの推進、ならびにモニタリングを行っています。協議会で決定した内容は執行役員会で共有され、必要に応じて経営執行会議・取締役会に付議・上程し、各業務執行部門の事業活動に反映しています。



ます。中でもサステナビリティ推進協議会はそれらについて具体的な

社外監査役コメント：進化するサステナビリティマネジメントに期待

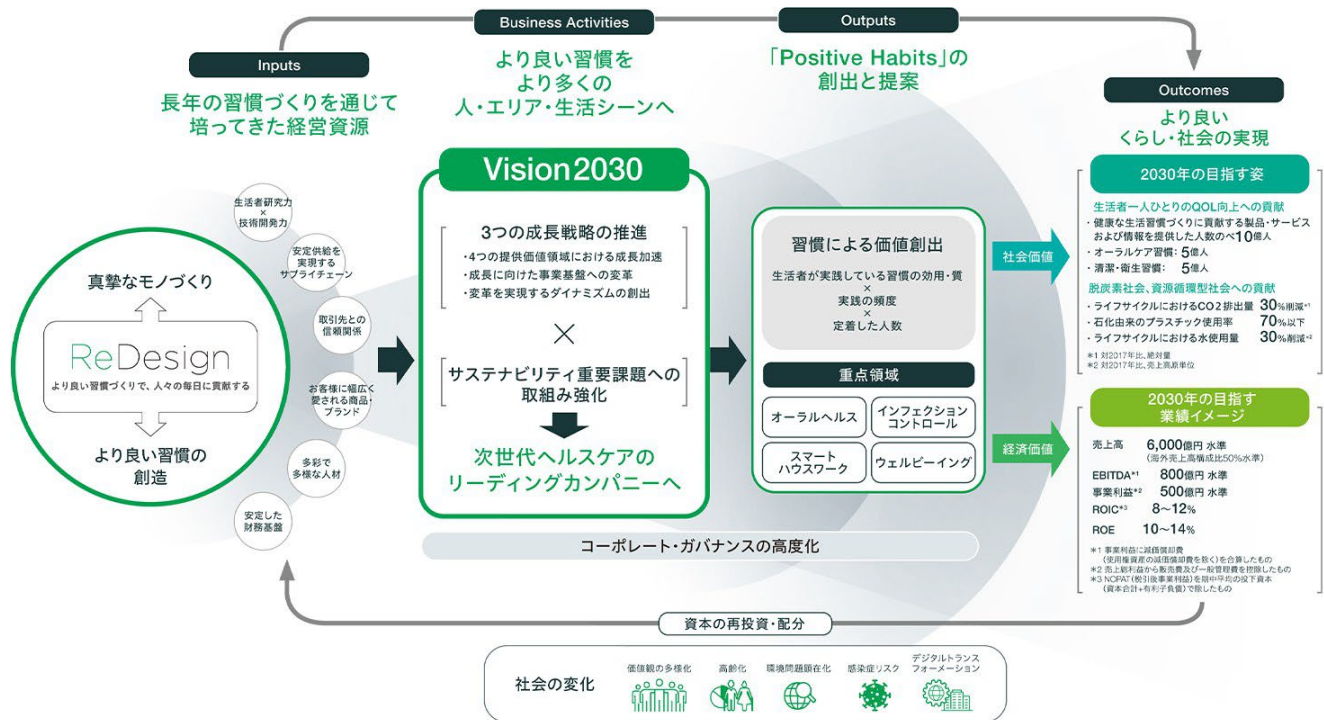
監査役会では、サステナビリティを年度毎の重点監査テーマの一つに取り上げています。私は長年サステナビリティ分野に携わってきましたので、その視点で環境（Environment）や人・社会（Social）の課題が取締役会をはじめライオン全体のガバナンス（Governance）の中で適切に意思決定されているのか確認しています。中でもサステナビリティ推進協議会はそれらについて具体的な方向付けを行い、投資やリスク、進捗管理等コーポレートでのリーダーシップを発揮するコア会議です。社長やサステナビリティ担当取締役、各管掌の取締役、事業の執行責任者等一人ひとりがパーパス実践のために熱心に、時にはコンフリクトも起こる真剣な検討を行っています。回を重ねるごとに様々なイノベティブな議論が行われつつあることも心強く感じます。ESG課題の解決が中長期的な企業価値に影響するという認識の浸透で、今後はより有効な非財務情報開示に向けた対応が急務です。生活者のより良い習慣づくりを通じてサステナブルな社会に貢献するライオンの事業をより透明性高く効率的に、社会や市場にお伝えすることが次の課題です。



社外監査役
鈴木 敦子

価値創造プロセス

ライオンは、長年の「真摯なモノづくりとより良い習慣の創造」により、パーパスを実践するための様々な経営資源を築いてきました。2030年のビジョン「次世代ヘルスケアのリーディングカンパニーへ」の実現に向けて、Positive Habitsを重点領域である4つの提供価値領域中心に創出し、それらをより多くの人・エリアに提供していきます。ライオンは、習慣の創造による暮らしの課題解決により持続的な企業価値向上を目指します。



サステナビリティ重要課題と2030年目標

重要課題の特定

当社は2020年に、経営ビジョンの実現やSDGsへの貢献等、2030年時点の社会像からバックキャストして2030年までに取り組むべき「サステナビリティ重要課題」を、以下のステップを通じて再確認しました。ライオングループサステナビリティ重要課題は、広く、事業や地球環境、社会のサステナビリティを考慮して「人と地球の健やかな未来」の実現に資する、当社事業と社会の双方に重要な課題です。特にあたっては、バリューチェーン全体およびステークホルダーを網羅的に勘案し、リスクと機会の両面でもらえています。

その中で特に「健康な生活習慣づくり」と「サステナブルな地球環境への取組み推進」は、経営資源を投下して競争優位を確保する課題であり、最重要課題として取り組むものと位置づけています。また、新型コロナウイルス感染症の拡大や社会環境も激しく変化していることから、2021年には目標や指標を再度見直しています。

サステナビリティ重要課題の考え方



サステナビリティ重要課題の特定ステップ



バリューチェーンにおけるサステナビリティ重要課題のリスクと機会

バリューチェーン全体及びステークホルダーを網羅的に勘案し、リスクと機会に重要課題を層別しました。

バリューチェーン段階	原材料調達	当社での活動	消費者による使用	消費者による廃棄
主なステークホルダー	取引先		お客様	
	従業員			
	株主・投資家			
	地域社会			
サステナビリティ重要課題	機会			
	<ul style="list-style-type: none"> ● 健康な生活習慣づくり ● ダイバーシティ & インクルージョンの推進 ● ワークライフエンリッチメントの推進 ● 人材開発 ● 従業員の健康増進 ● お客様の満足と信頼の追求 			
リスク	<ul style="list-style-type: none"> ● サステナブルな地球環境への取り組み推進 ● 労働安全管理体制の充実 ● 人権の尊重 ● 責任あるサプライチェーンマネジメントの構築 ● リスクマネジメントの推進 ● コンプライアンスの強化 ● ガバナンスの強化 			

ライオングループ サステナビリティ重要課題（マテリアリティ）と2030年目標

当社グループは、2030年に向けた経営ビジョン「次世代ヘルスケアのリーディングカンパニーへ」の実現や、持続可能な開発目標 (SDGs) が目指す世界への貢献等を見据えた上で、「ライオングループ サステナビリティ重要課題と2030年目標」を設定しています。当社グループが常に社会とお客様から必要とされ、事業成長を続けるためには、より長期的視点で課題をとらえ取り組むことが重要です。2030年目標では、より高い到達レベルでの目標を目指し、目標達成の定量的な評価ができる指標を設定しています (新型コロナウイルスの感染拡大や社会環境の変化から、2021年に目標や指標を見直しました)。

今後も当社グループは、サステナビリティを経営戦略に取り込む統合思考で、サステナブルな社会への貢献とさらなる事業成長を目指します。

サステナビリティ重要課題と2030年目標

概要を一括で閲覧や印刷したい場合はPDF版を、詳細ページへたどる場合はWeb版を活用ください。

サステナビリティへの取組み

サステナビリティ重要課題への取組み強化

リスク管理

当社グループは、持続的な成長とお客様への商品供給をはじめとする社会的責任を果たすうえで、経営に大きな影響をおよぼすリスクとして、サステナビリティに関する事項を含むリスクを選定し、重点的に管理しています。具体的なリスクと対応策に関しては「事業等のリスク」(P.64)をご参照ください。

指標と目標

サステナビリティ重要課題と2030年目標・指標／2023年実績・施策

「2030年サステナビリティ重要課題・目標」において、各課題の解決に向けた活動を推進しました。今後も、さらなる取組みを進めていきます。

重要課題	目標 (2030年)	指標 (2030年)	指標の進捗 (2023年実績)	2030年までのグローバル共通施策
E サステナブルな地球環境への取組み推進 WEB	事業所活動におけるCO2排出量の削減を目指します。	・事業所CO2排出量 ⇒2017年比で55%削減(絶対量)	・39%削減(2017年比) (カーボンクレジット購入分を控除した数値。控除しない場合は29%削減)	・省エネ活動でエネルギー使用量を削減します。 ・購入電力を再生可能エネルギー化します。
	ライフサイクルにおけるCO2排出量の削減を目指します。	・ライフサイクルCO2排出量 ⇒2017年比で30%削減(絶対量)です	・3%増加(2017年比)	・環境フレンドリー製品・サービスの提供とエコの習慣化の促進により、生活者の使用場面で排出されるCO2を削減します。 ・サプライヤーエンゲージメントを推進し、CO2排出量の少ない原材料を購入することにより、調達段階のCO2を削減します。
	自社の排出量を上回るCO2削減により、社会におけるカーボンネガティブを目指します。	・自社の排出量を上回るCO2削減貢献(国内)	・アクションプランを策定し効果検証予定	・業界や他社との協業により、社会全体で排出されるCO2を削減します。 ・環境フレンドリー製品・サービスの提供により、家庭で排出されるCO2を削減します。
	3R(Reduce<削減>、Reuse<再利用>、Recycle<再資源化>)とRenewable<持続可能な資源の活用>を積極的に推進します。	・石化由来のプラスチック使用率⇒70%以下	・96%(国内) 包装・容器のサステナブル材料使用率3.9%	・製品・容器包装への再生プラスチックおよびバイオマス材料の使用を拡大し、石化由来材料の使用量を削減します。 ・製品・容器包装へのプラスチック使用量の削減(Reduce)・再利用(Reuse)を継続して推進します。
	ライフサイクルにおける水使用量の削減を目指します。	・ライフサイクル水使用量 ⇒2017年比で30%削減(売上高原単位)	・13%削減(2017年比)	・節水型製品の提供により、生活者が使用する水を削減します。
S 健康な生活習慣づくり WEB	すべての人が必要な時に、いつでも、オーラルケアを行える機会を提供し、誰もが健康でいられるよう、オーラルケアの習慣化を目指します。	・健康な生活習慣づくりに貢献する製品・サービス、および情報を提供した人数 ⇒のべ10億人 (オーラルケア 5億人、清潔・衛生 5億人)	オーラルケア 3.1億人* (予防歯科習慣の啓発) 国内： ・職域・子どものオーラルケア習慣支援サービスの拡張 (『おくちプラスユー』『おくち育』) 海外： ・幼稚園・小学校での歯みがき普及啓発活動実施 (予防歯科習慣の実践) 国内： ・歯みがき頻度拡大の促進 歯みがき実施率37%(2030年目標50%) ・ハミガキ、ハブラシ以外の製品の使用拡大の促進 歯間清掃用具使用率38%(2030年目標50%) *実態調査より算出	・オーラルケアのより良い習慣づくりに向けた製品・サービスを拡大します。 ・「予防歯科」「オーラルケア習慣」の定着に向けた普及啓発活動を強化します。 ・オーラルケアを通じて、人や社会の課題に取り組む活動を推進します。 (インクルーシブ・オーラルケア)
	日常生活のあらゆるシーンの中で、菌・ウイルスの体内侵入を防ぎ、誰もが健康でいられるよう、清潔・衛生活動の習慣化を目指します。		清潔・衛生 1.7億人* (教育機関を起点とした清潔・衛生習慣の浸透・定着) ライオングループ： ・保育所・幼稚園・小学校での手洗い習慣の普及啓発活動実施 ・ Bangladesh における JICA を通じた小学校での衛生啓発実施 ・「キレイキレイ グローバルお絵描きマイボトルコンテスト」実施 (清潔・衛生習慣化に向けた活動領域の拡大) 国内： ・キレイのリレー マイボトルキャンペーンの実施 *実態調査より算出	・毎日の手指の清潔・衛生習慣づくりを支える製品・サービスを提供します。 ・日常のあらゆる場所・場面において、菌やウイルスから生活者を守る製品・サービスにより、新たな顧客体験を提供します。 ・あらゆる生活シーンにおける清潔・衛生活動の習慣化に向けた普及啓発活動を実施します。

重要課題	目標 (2030年)	指標 (2030年)	指標の進捗 (2023年実績)	2030年までのグローバル共通施策
ダイバーシティ&インクルージョンの推進 WEB	多様な価値観や考えを持った人材が、個性や能力を存分に発揮して活躍することを目指します。	・管理職に占める女性労働者の割合⇒30%以上 ・「多様な価値観を持った従業員が活躍できている」と思う従業員の割合⇒80%以上	・管理職に占める女性労働者の割合⇒24% ・従業員割合⇒56% (国内)	・従業員が多様な価値観について理解を深める機会を提供します。 ・多様な人材が活躍できる制度や仕組みを整備します。
ワークライフエンリッチメントの推進 WEB	従業員一人ひとりが、ワークとライフの相乗作用により、人生のWILLを実現できる環境を目指します。	・「仕事以外の生活 (家庭での役割や社外活動等) が仕事に良い影響を与えている」と思う従業員の割合⇒75%以上	・54% (国内)	・従業員一人ひとりが描くライフプランとライフスタイルを実現できる環境を整備します。
人材開発 WEB	従業員一人ひとりが、多彩な能力を最大限に発揮し挑戦できる環境を整備することで、変革を実現するダイナミズムを創出する人材の育成を目指します。	・一人ひとりのスキル習得と能力開発に対応した多彩な教育プログラム (ライオン・キャリアビレッジ) を受講している従業員の割合⇒100%	・57%	・e-ラーニングの仕組みと受講コンテンツを海外グループ会社のニーズも加味して導入します。 ・継続的に活用する仕組みを整備して、学習機会のコンテンツを提供します。
従業員の健康増進 WEB	従業員の心と身体のヘルスケアを支えることで、人材力の強化につなげ、持続可能な企業成長を目指します。	・歯科健診の受診率⇒100% ・アブセンティズム⇒2021年比改善⇒ゼロ	・歯科健診受診率⇒90% (国内) ※海外は、算出方法を検討中 ・アブセンティズム⇒0.9% (国内単体、2021年比微増) ※海外は、算出方法を検討中	・日常のオーラルセルフケア行動、定期的な歯科健診によるPDCAサイクルを全従業員が回せる環境と情報・学習機会を提供します。 ・メンタルヘルスケアのために、管理職へのラインケアおよび全従業員へのセルフケア学習の機会を提供します。 ・従業員のヘルスリテラシーを向上させるために、自身の健康状態や将来リスクを理解し、日々の生活の中で予防的な行動がとれる情報を提供します。
労働安全管理体制の充実 WEB	労働安全衛生に関する法令遵守および安全意識の向上が徹底され、従業員および事業所内で働く外部パートナーが、安全、安心に働けることを目指します。	・安全に関する教育・研修の受講⇒事業所・拠点における計画 (100%) 実施 ・労働安全衛生に関する法令遵守重大事故・災害件数⇒ゼロ	・研修受講⇒計画に対して100%実施 ・重大事故・災害件数⇒ゼロ	・安全・防災に関する教育の機会提供や、安全基本活動の理解促進につながる活動を実行します。 ・安全に関する情報交換の仕組みを構築するとともに、労働災害発生頻度の管理により、安全な職場環境への到達状況を積極的に開示します。
人権の尊重 WEB	「ライオン人権方針」に沿って、事業活動によって影響を受けるすべてのステークホルダーの人権を尊重します。	・重要な人権問題に対する人権デューデリジェンスの対応実施率⇒100%	・人権デューデリジェンス対応実施率 ライオングループ: 100% サプライヤー: 87%	・人権問題に対応する仕組みを構築します。 ・重要な人権リスクを特定し、そのリスクについて、受け手側がどのような負の影響を受けるか検証します。 ・特定した人権リスクについて対応策を実行し、状況をモニタリングします。 ・人権デューデリジェンス対応状況を積極的に開示します。
責任あるサプライチェーンマネジメントの構築 WEB	「持続可能な原材料調達方針」や「ライオングループサプライヤーCSRガイドライン」に沿って、児童労働や強制労働等の人権・労働問題や環境破壊等を許さない持続可能な調達を目指します。	・認証紙・パルプ (FSC、PEFC等)、認証パーム油・パーム核油およびそれらの誘導体 (RSPO等) を調達する⇒全量 ・認証紙・パルプ (FSC、PEFC等)、認証パーム油・パーム核油およびそれらの誘導体 (RSPO等) は、森林破壊ゼロを支持するサプライヤーから調達する⇒全社	・認証品調達率 国内: 認証紙・パルプ: 75% (アイテム比率) 認証パーム油・パーム核油誘導体: 99% (主要原料ベース) ライオングループ: 認証紙・パルプ: 20% (アイテム比率) 認証パーム油・パーム核油誘導体: 51% (主要原料ベース) ・森林破壊ゼロ支持サプライヤー率 国内: 54%、ライオングループ: 41%	・サプライヤーと連携して持続可能な調達を実現する体制を整備し、推進します。
顧客の満足と信頼の追求 WEB	製品・サービスの価値向上や顧客対応品質の向上を通じて、生活者視点に立った事業活動の推進を強化します。	・顧客に選ばれ続けるために、すべての製品・サービスに生活者の意見が活かされている。	・国際的なVOCレポート共有 (海外、2023年6月・12月) ・ソーシャルメディアリスク対応マニュアルに基づき、ネット炎上トレーニング第2回実施 (国内、6月) ・SNSアクティブコミュニケーション開始 (国内、10月)	・顧客対応部門の活動進化への取組みを「現状把握⇒計画の策定⇒活動の推進」のステップで着実に進めます。 ・顧客とのリレーションシップ向上・ソリューション手段拡充のための環境を整備します。 ・製品・サービスに顧客の声を反映させる活動を仕組み化し、実践します。
リスクマネジメントの推進 WEB	リスクの特定ならびに迅速かつ適切に対処する網羅的・総合的なリスクマネジメント体制を構築し、企業の持続的な成長を目指します。	・事業における重要なリスクのモニタリング状況およびその低減に向けた対応策の推進状況の開示⇒年1回以上	・1回開示	・海外グループ会社を含めたマネジメント体制を整備し、周知徹底します。 ・統一フォーマットでリスクを洗い出し、対応策を実施します。 ・対応状況について取締役会に毎年報告し、情報を共有します。
コンプライアンスの強化 WEB	コンプライアンス意識定着に向けた実効性のある活動を強化し、社会から信頼される企業を目指します。	・コンプライアンスに関する教育・研修の受講⇒事業所・拠点における計画 (100%) 実施 ・重大なコンプライアンス違反件数⇒ゼロ	・研修受講⇒計画に対して100%実施 ・重大なコンプライアンス違反件数⇒ゼロ	・海外グループ会社を含めたコンプライアンス遵守体制を整備し、充実させます。 ・役員・従業員研修、アンケート等の継続的な実施により浸透を図ります。 ・海外グループ会社のコンプライアンス責任者設置、グローバルホットライン構築により、グループ全体の危機察知力向上、対応の迅速化を図ります。
ガバナンスの強化 WEB	健全、公正、かつ透明で実効性の高いガバナンス体制を構築し、持続的な企業価値向上を目指します。	・内部統制システムの整備・運用状況の開示⇒年1回以上 ・外部評価機関の評価向上⇒2020年起点での継続向上	・1回開示 ・2022年と同等以上、評価向上に向けて活動継続	・現在の内部統制システムの運用状況を評価し開示します。 ・海外グループ会社における内部統制システムの整備状況を明確にしたうえで、運用状況の評価を行います。 ・ガバナンスに関わる非財務情報を継続的かつ積極的に開示します。

サステナビリティ重要課題と2030年目標・指標、2023年実績、施策

- ✓ 1. サステナブルな地球環境への取組み推進
- ✓ 2. 健康な生活習慣づくり
- ✓ 3. ダイバーシティ&インクルージョンの推進
- ✓ 4. ワークライフエンリッチメントの推進
- ✓ 5. 人材開発
- ✓ 6. 従業員の健康増進
- ✓ 7. 労働安全管理体制の充実
- ✓ 8. 人権の尊重
- ✓ 9. 責任あるサプライチェーンマネジメントの構築
- ✓ 10. 顧客の満足と信頼の追求
- ✓ 11. リスクマネジメントの推進
- ✓ 12. コンプライアンスの強化
- ✓ 13. ガバナンスの強化

サステナブルな地球環境への取組み推進

重要課題 1

環境

最重要課題



目標

- ① 事業所活動におけるCO₂排出量の削減を目指します。
- ② ライフサイクルにおけるCO₂排出量の削減を目指します。
- ③ 自社の排出量を上回るCO₂削減により、社会におけるカーボンネガティブを目指します。3R
- ④ (Reduce (削減)、Reuse (再利用)、Recycle (再資源化))とRenewable (持続可能な資源の活用)を積極的に推進します。
- ⑤ ライフサイクルにおける水使用量の削減を目指します。

1 目標

事業所活動におけるCO₂排出量の削減を目指します。

指標 (2030年)	事業所CO ₂ 排出量⇒2017年比で55%削減 (絶対量)
指標の進捗 (2023年実績)	39%削減 (2017年比) * * カーボンクレジット購入分を控除した数値。控除しない場合は29%削減
2030年までの グローバル共通施策	<ul style="list-style-type: none"> • 省エネ活動でエネルギー使用量を削減します。 • 購入電力を再生可能エネルギー化します。



⑧ 詳細情報

> 環境とともに

> 事業所活動におけるCO₂排出量削減

> ESGデータ

2

ライフサイクルにおけるCO₂排出量の削減を目指します。

指標（2030年）	ライフサイクルCO ₂ 排出量⇒2017年比で30%削減（絶対量）
指標の進捗 （2023年実績）	3%増加（2017年比）
2030年までの グローバル共通施策	<ul style="list-style-type: none">環境フレンドリー製品・サービスの提供とエコの習慣化の促進により、生活者の使用場面で排出されるCO₂を削減します。サプライヤーエンゲージメントを推進し、CO₂排出量の少ない原材料を購入することにより、調達段階のCO₂を削減します。



詳細情報

- > 環境とともに
- > ライフサイクルにおけるCO₂排出量削減
- > ESGデータ

3 目標

自社の排出量を上回るCO₂削減により、社会におけるカーボンネガティブを目指します。

指標（2030年）	自社の排出量を上回るCO ₂ 削減貢献（国内）
指標の進捗 （2023年実績）	アクションプランを策定し効果検証予定
2030年までの グローバル共通施策	<ul style="list-style-type: none">業界や他社との協業により、社会全体で排出されるCO₂を削減します。環境フレンドリー製品・サービスの提供により、家庭で排出されるCO₂を削減します。



詳細情報

- > 環境とともに
- > 事業所活動におけるCO₂排出量削減
- > ESGデータ

4

3R（Reduce〈削減〉、Reuse〈再利用〉、Recycle〈再資源化〉）とRenewable〈持続可能な資源の活用〉を積極的に推進します。

指標（2030年）	石化由来のプラスチック使用率⇒70%以下
指標の進捗 （2023年実績）	96%（国内） 包装・容器のサステナブル材料使用率 3.9%
2030年までの グローバル共通施策	<ul style="list-style-type: none"> 製品・容器包装への再生プラスチック及びバイオマス材料の使用を拡大し、石化由来材料の使用量を削減します。 製品・容器包装へのプラスチック使用量の削減（Reduce）・再利用（Reuse）を継続して推進します。



🔗 詳細情報

> 環境とともに

> 資源循環

> ESGデータ

5 目標

ライフサイクルにおける水使用量の削減を目指します。

指標（2030年）	ライフサイクル水使用量⇒2017年比で30%削減 （売上高原単位）
指標の進捗 （2023年実績）	13%削減（2017年比）
2030年までの グローバル共通施策	節水型製品の提供により、生活者が使用する水を削減します。



🔗 詳細情報

> 環境とともに

> 水使用量削減

> ESGデータ

健康な生活習慣づくり

重要課題 2

健康

最重要課題



目標

- 1 すべての人が必要な時に、いつでも、オーラルケアを行える機会を提供し、誰もが健康でいられるよう、オーラルケアの習慣化を目指します。
- 2 日常生活のあらゆるシーンの中で、菌・ウイルスの体内侵入を防ぎ、誰もが健康でいられるよう、清潔・衛生行動の習慣化を目指します。

1 目標

すべての人が必要な時に、いつでも、オーラルケアを行える機会を提供し、誰もが健康でいられるよう、オーラルケアの習慣化を目指します。

指標（2030年）	健康な生活習慣づくりに貢献する製品・サービス、及び情報を提供した人数 ⇒5億人
指標の進捗 （2023年実績）	<p>オーラルケア 3.1億人*</p> <p><予防歯科習慣の啓発></p> <p>国内：</p> <ul style="list-style-type: none"> • 職域、子どものオーラルケア習慣支援サービスの拡張（『おくちプラスユー』『おくち育』） <p>海外：</p> <ul style="list-style-type: none"> • 幼稚園・小学校での歯みがき普及啓発活動実施 <p><予防歯科習慣の実践></p> <p>国内：</p> <ul style="list-style-type: none"> • 歯みがき頻度拡大の促進 昼歯みがき実施率37%（2030年目標50%） • ハミガキ、ハブラシ以外の製品の使用拡大の促進 歯間清掃用具使用率38%（2030年目標50%） <p>*実態調査より算出</p>
2030年までの グローバル共通施策	<ul style="list-style-type: none"> • オーラルケアのより良い習慣づくりに向けた製品・サービスを拡大します。 • 「予防歯科」「オーラルケア習慣」の定着に向けた普及啓発活動を強化します。 • オーラルケアを通じて、人や社会の課題に取り組む活動を推進します。（インクルーシブ・オーラルケア）



🔗 詳細情報

> [健康な生活習慣づくり](#)

> [オーラルケア習慣の定着化に向けた取り組み](#)

> [ESGデータ](#)

2

日常生活のあらゆるシーンの中で、菌・ウイルスの体内侵入を防ぎ、誰もが健康でいられるよう、清潔・衛生行動の習慣化を目指します。



指標（2030年）	健康な生活習慣づくりに貢献する製品・サービス、及び情報を提供した人数 ⇒5億人
指標の進捗 （2023年実績）	<p>清潔・衛生 1.7億人*</p> <p><教育機関を起点とした清潔・衛生習慣の浸透・定着></p> <p>ライオングループ：</p> <ul style="list-style-type: none"> • 保育所・幼稚園・小学校での手洗い習慣の普及啓発活動実施 • バングラデシュにおけるJICAを通じた小学校での衛生啓発実施 • 「キレイキレイ グローバルお絵描きマイボトルコンテスト」実施 <p><清潔・衛生習慣化に向けた活動領域の拡大></p> <p>国内：</p> <ul style="list-style-type: none"> • キレイのリレー マイボトルキャンペーンの実施* <p>実態調査より算出</p>
2030年までの グローバル共通施策	<ul style="list-style-type: none"> • 毎日の手指の清潔・衛生習慣づくりを支える製品・サービスを提供します。 • 日常のあらゆる場所・場面において、菌やウイルスから生活者を守る製品・サービスにより、新たな顧客体験を提供します。 • あらゆる生活シーンにおける清潔・衛生行動の習慣化に向けた普及啓発活動を実施します。

⑧ 詳細情報

> 健康な生活習慣づくり

> 清潔・衛生習慣の定着化に向けた取り組み

> ESGデータ

ダイバーシティ&インクルージョンの推進

重要課題3

従業員



目標

多様な価値観や考えを持った人材が、個性や能力を存分に発揮して活躍することを目指します。

指標（2030年）	<ul style="list-style-type: none">管理職に占める女性労働者の割合 ⇒ 30%以上「多様な価値観を持った従業員が活躍できている」と思う従業員の割合 ⇒ 80%以上
指標の進捗 （2023年実績）	<ul style="list-style-type: none">管理職に占める女性労働者の割合 ⇒ 24%従業員割合 ⇒ 56%（国内）
2030年までの グローバル共通施策	<ul style="list-style-type: none">従業員が多様な価値観について理解を深める機会を提供します。多様な人材が活躍できる制度や仕組みを整備します。



🔗 詳細情報

> 従業員とともに

> ダイバーシティ&インクルージョンの推進

> ESGデータ

ワークライフエンリッチメントの推進

重要課題4

従業員



目標

従業員一人ひとりが、ワークとライフの相乗作用により、人生のWILLを実現できる環境を目指します。

指標（2030年）	「仕事以外の生活（家庭での役割や社外活動等）が仕事により影響を与えている」と思う従業員の割合⇒75%以上
指標の進捗 （2023年実績）	54%（国内）
2030年までの グローバル共通施策	従業員一人ひとりが描くライフプランとライフスタイルを実現できる環境を整備します。



🔗 詳細情報

> 従業員とともに

> ワークライフエンリッチメントの推進

> ESGデータ

人材開発

重要課題5

従業員



目標

従業員一人ひとりが、多彩な能力を最大限に発揮し挑戦できる環境を整備することで、変革を実現するダイナミズムを創出する人材の育成を目指します。

指標（2030年）	一人ひとりのスキル習得と能力開発に対応した多彩な教育プログラム（ライオン・キャリアビレッジ）を受講している従業員の割合⇒100%
指標の進捗 （2023年実績）	57%
2030年までの グローバル共通施策	<ul style="list-style-type: none">e-ラーニングの仕組みと受講コンテンツを海外グループ会社のニーズも加味して導入します。継続的に活用する仕組みを整備して、学習機会のコンテンツを提供します。



🔗 詳細情報

> 従業員とともに

> 人材開発

> ESGデータ

従業員の健康増進

重要課題6

従業員



目標

従業員の心と身体のヘルスケアを支えることで、人材力の強化につなげ、持続可能な企業成長を目指します。

指標（2030年）	歯科健診の受診率 ⇒ 90%（国内） アブセンティーズム ⇒ 2021年比改善
指標の進捗 （2023年実績）	<ul style="list-style-type: none">歯科健診受診率 ⇒ 90%（国内） *海外は、算出方法を検討中アブセンティーズム ⇒ 0.9%（国内単体、2021年比微増） *海外は、算出方法を検討中
2030年までの グローバル共通施策	<ul style="list-style-type: none">日常のオーラルセルフケア行動、定期的な歯科健診によるPDCAサイクルを全従業員が回せる環境と情報・学習機会を提供します。メンタルヘルスケアのために、管理職へのラインケア及び全従業員へのセルフケア学習の機会を提供します。従業員のヘルスリテラシーを向上させるために、自身の健康状態や将来リスクを理解し、日々の生活の中で予防的な行動が取れる情報を提供します。



🔗 詳細情報

> 従業員とともに

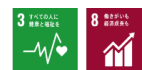
> 従業員の健康増進

> ESGデータ

労働安全管理体制の充実

重要課題7

従業員



目標

労働安全衛生に関する法令遵守及び安全意識の向上が徹底され、従業員及び事業所内で働く外部パートナーが、安全、安心に働けることを目指します。

指標（2030年）	<ul style="list-style-type: none">安全に関する教育・研修の受講⇒事業所・拠点における計画（100%）実施労働安全衛生に関する法令遵守 重大事故・災害件数⇒ゼロ
指標の進捗 （2023年実績）	<ul style="list-style-type: none">研修受講⇒計画に対して100%実施重大事故・災害件数⇒ゼロ
2030年までの グローバル共通施策	<ul style="list-style-type: none">安全・防災に関する教育の機会提供や、安全基本活動の理解促進につながる活動を実行します。安全に関する情報交換の仕組みを構築するとともに、労働災害発生頻度の管理により安全な職場環境への到達状況を積極的に開示します。



🔗 詳細情報

- > 従業員とともに
- > 労働安全管理体制の充実
- > ESGデータ

人権の尊重

重要課題8

人権



目標

「ライオン人権方針」に沿って、事業活動によって影響を受けるすべてのステークホルダーの人権を尊重します。

指標（2030年）	重要な人権問題に対する人権デューデリジェンスの対応実施率⇒100%
指標の進捗 （2023年実績）	人権デューデリジェンス対応実施率 <ul style="list-style-type: none">ライオングループ：100%サプライヤー：87%
2030年までの グローバル共通施策	<ul style="list-style-type: none">人権問題に対応する仕組みを構築します。重要な人権リスクを特定し、そのリスクについて、受け手側がどのような負の影響を受けるか検証します。特定した人権リスクについて対応策を実行し、状況をモニタリングします。人権デューデリジェンス対応状況を積極的に開示します。



🔗 詳細情報

- > 人権の尊重
- > 人権侵害防止への取り組み（人権デューデリジェンス）
- > ESGデータ

責任あるサプライチェーンマネジメントの構築

重要課題9

サプライチェーン



目標

「持続可能な原材料調達方針」や「ライオングループサプライヤーCSRガイドライン」に沿って、児童労働や強制労働等の人権・労働問題や環境破壊等を許さない持続可能な調達を目指します。

指標（2030年）	<ul style="list-style-type: none"> 認証紙・パルプ（FSC、PEFC等）、認証パーム油・パーム核油及びそれらの誘導体（RSPO等）を調達する⇒全量 認証紙・パルプ（FSC、PEFC等）、認証パーム油・パーム核油及びそれらの誘導体（RSPO等）は、森林破壊ゼロを支持するサプライヤーから調達する⇒全社
指標の進捗 （2023年実績）	<ul style="list-style-type: none"> 認証品調達率 国内： 認証紙・パルプ：75%（アイテム比率） 認証パーム油・パーム核油誘導体：99%（主要原料ベース） ライオングループ： 認証紙・パルプ：20%（アイテム比率） 認証パーム油・パーム核油誘導体：51%（主要原料ベース） 森林破壊ゼロ支持サプライヤー率 国内：54% ライオングループ：41%
2030年までの グローバル共通施策	サプライヤーと連携して持続可能な調達を実現する体制を整備し、推進します。



🔗 詳細情報

> サプライチェーンとともに

> 持続可能な原材料調達に向けて

> ESGデータ

顧客の満足と信頼の追求

重要課題 10

顧客



目標

製品・サービスの価値向上や顧客対応品質の向上を通じて、生活者視点に立った事業活動の推進を強化します。

指標（2030年）	顧客に選ばれ続けるために、すべての製品・サービスに生活者の意見が活かされている。
指標の進捗 （2023年実績）	<ul style="list-style-type: none">・ インターナショナルVOCレポート共有（海外、2023年6月・12月）・ ソーシャルメディアリスク対応マニュアルに基づき、ネット炎上トレーニング第2回実施（国内、6月）・ SNSアクティブコミュニケーション開始（国内、10月）
2030年までの グローバル共通施策	<ul style="list-style-type: none">・ 顧客対応部門の活動進化への取組みを「現状把握⇒計画の策定⇒活動の推進」のステップで着実に進めます。・ 顧客とのリレーションシップ向上・ソリューション手段拡充のための環境を整備します。・ 製品・サービスに顧客の声を反映させる活動を仕組み化し、実践します。



🔗 詳細情報

> [安心・安全な商品のために](#)

> [お客様の声にお応えする取り組み](#)

> [ESGデータ](#)

リスクマネジメントの推進

重要課題 11

ガバナンス



目標

リスクの特定ならびに迅速かつ適切に対処する網羅的・総括的なリスクマネジメント体制を構築し、企業の持続的な成長を目指します。

指標（2030年）	事業における重要なリスクのモニタリング状況及びその低減に向けた対応策の推進状況の開示⇒年1回以上
指標の進捗 （2023年実績）	1回開示
2030年までの グローバル共通施策	<ul style="list-style-type: none">・ 海外グループ会社を含めたマネジメント体制を整備し、周知徹底します。・ 統一フォーマットでリスクを洗い出し、対応策を実施します。・ 対応状況について取締役会に毎年報告し、情報を共有します。



🔗 詳細情報

> [リスクマネジメント](#)

> [ESGデータ](#)

コンプライアンスの強化

重要課題 1 2

ガバナンス



目標

コンプライアンス意識定着に向けた実効性のある活動を強化し、社会から信頼される企業を目指します。

指標（2030年）	<ul style="list-style-type: none">コンプライアンスに関する教育・研修の受講⇒事業所・拠点における計画（100%）実施重大なコンプライアンス違反件数⇒ゼロ
指標の進捗 （2023年実績）	<ul style="list-style-type: none">研修受講 ⇒ 計画に対して100%実施重大なコンプライアンス違反件数 ⇒ ゼロ
2030年までの グローバル共通施策	<ul style="list-style-type: none">海外グループ会社を含めたコンプライアンス遵守体制を整備し、充実させます。役員・従業員研修、アンケート等の継続的な実施により浸透を図ります。海外グループ会社のコンプライアンス責任者設置、グローバルホットライン構築により、グループ全体の危機察知力向上、対応の迅速化を図ります。



🔗 詳細情報

> [コンプライアンス](#)

> [ESGデータ](#)

ガバナンスの強化

重要課題 1 3

ガバナンス



目標

健全、公正、かつ透明で実効性の高いガバナンス体制を構築し、持続的な企業価値向上を目指します。

指標（2030年）	<ul style="list-style-type: none">内部統制システムの整備・運用状況の開示⇒年1回以上外部評価機関の評価向上⇒2020年起点での継続向上
指標の進捗 （2023年実績）	<ul style="list-style-type: none">1回開示2022年と同等以上、評価向上に向けて活動継続
2030年までの グローバル共通施策	<ul style="list-style-type: none">現在の内部統制システムの運用状況を評価し開示します。海外グループ会社における内部統制システムの整備状況を明確にしたうえで、運用状況の評価を行います。ガバナンスに関わる非財務情報を継続的かつ積極的に開示します。



🔗 詳細情報

> [コーポレート・ガバナンスの考え方と体制](#)

> [ESGデータ](#)